



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月2日

上場会社名 株式会社あじかん 上場取引所 東  
 コード番号 2907 URL <https://www.ahjikan.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 足利 直純  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長 (氏名) 森屋敷 登 TEL 082-277-7010  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	38,734	△0.1	712	△66.7	950	△59.9	615	△62.3
2025年3月期第3四半期	38,779	2.9	2,136	62.2	2,370	43.1	1,630	46.4

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 688百万円 (△60.5%) 2025年3月期第3四半期 1,743百万円 (26.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 80.87	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	214.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2026年3月期第3四半期	百万円 30,021	百万円 17,849	% 59.5	円 銭 2,345.21
2025年3月期	26,897	17,388	64.6	2,284.71

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 17,849百万円 2025年3月期 17,388百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 30.00	円 銭 30.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				52.00	52.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注2) 2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 特別配当 5円00銭

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 51,000	% △0.1	百万円 1,100	% △44.0	百万円 1,300	% △41.5	百万円 900	% △41.9

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

新規 一社 (社名) 一、除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ： 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | ： 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | ： 無 |
| ④ 修正再表示              | ： 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	7,700,000株	2025年3月期	7,700,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	89,053株	2025年3月期	89,053株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	7,610,947株	2025年3月期 3Q	7,610,947株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3 「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更しております。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位の記載に変更しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用や所得環境が改善する中、景気は緩やかな回復がみられる状況となりました。しかしながら、物価上昇の継続に伴う個人消費の下振れ、米国の関税政策に伴う金融資本市場の大幅な変動など、景気回復を下押しするリスクも台頭しており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては仕入価格や諸経費が高値で推移していることに加え、人手不足に伴う人件費の高騰など、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは、「“おやくだち”の精神でお客さまや取引先、株主、社会へ貢献し、社員がいきいきと働く風土づくりと安定した収益構造および価値創造ビジネスの推進により、“選ばれる企業”として持続的に成長していく」ことを基本方針とした第13次中期経営計画の2年目をスタートさせ、第一に「収益構造改革の完遂」、第二に「業務用事業の質的成長と拡大」、第三に「ヘルスフード事業、海外事業の成長拡大」、第四に「ごぼう事業、市販事業の新たな価値の創造」、第五に「経営品質の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、38,734百万円（前年同四半期比0.1%減少）となり、前年同四半期実績を若干下回りました。一方、利益面につきましては、中間連結会計期間に売価改定を実施したものの、当社の主要原材料である鶏卵価格が過去に類を見ない高値で推移したことに加え、人件費や物流コストの上昇などもあり、営業利益は712百万円（前年同四半期比66.7%減少）となりました。経常利益は、為替差益やデリバティブの時価評価益などにより950百万円（前年同四半期比59.9%減少）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は615百万円（前年同四半期比62.3%減少）となりました。

報告セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### ①業務用食品等

販売面におきましては、米や海苔などの価格高騰により当社の主力製品を多く使用した巻寿司の需要が減退したことで、玉子製品や、かに風味蒲鉾などのすり身製品、味付かんぴょうなどの野菜加工品の需要が減少しました。加えて、食料品価格上昇の継続に伴う消費行動の変化やインバウンド消費などにより、回転すしチェーンを中心とした外食業態の需要は上昇したものの、当社の主要取引先であるスーパーマーケットやコンビニエンスストアを中心とした米飯市場の需要が減少しました。以上の結果、売価改定による增收効果は一定程度ありましたが、国内売上高は前年同四半期実績を下回る結果となりました。他方、海外輸出売上高につきましては、カリフォルニア州における動物福祉法（Prop. 12）によって、鶏卵を使用した玉子製品の流通が規制されており、北米での売上が低調となりましたが、オセアニアや香港、シンガポールを中心に需要が拡大し、前年同四半期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産効率の向上に努めましたが、当社の主要原材料である鶏卵価格が当第3四半期連結累計期間を通じて高値で推移したことにより、製造原価率は前年同四半期に比べ大幅に上昇しました。

販売費につきましては、人件費や物流コストの上昇などにより、前年同四半期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は35,408百万円（前年同四半期比1.0%減少）となり、セグメント利益（営業利益）は1,915百万円（前年同四半期比40.9%減少）となりました。

#### ②ヘルスフード

販売面におきましては、通信販売は、テレビCMを中心に積極的な広告宣伝を実施したことなどもあり、「焙煎ごぼう茶ごぼうのおかげW」をはじめとした機能性表示食品の売上が好調に推移したことで、売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。他方、ドラッグストアなどの市販品では、ペットボトルタイプの「おいしい！ごぼう茶」の売上が好調に推移したことや、新規開拓やインストアプロモーションの強化を行ったことなどにより、売上高は前年同四半期実績を上回る結果となりました。

生産面におきましては、生産高が増加したことで固定費率が低下しましたが、主要原材料であるごぼうが高値で推移した結果、製造原価率は前年同四半期に比べ上昇しました。

販売費につきましては、増収に伴う変動費の増加に加え、戦略的な広告宣伝の実施、人件費の上昇などにより、前年同四半期に比べ増加しました。

これらの結果、外部顧客への売上高は2,980百万円（前年同四半期比11.4%増加）となり、セグメント利益（営業利益）は245百万円（前年同四半期比5.1%増加）となりました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,124百万円増加し30,021百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ3,023百万円増加し16,786百万円となりました。主な増減要因は、受取手形及び売掛金の増加2,530百万円、原材料及び貯蔵品の増加244百万円、商品及び製品の増加176百万円、現金及び預金の減少261百万円などあります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ100百万円増加し13,234百万円となりました。これは、投資その他の資産において、投資有価証券やその他に含まれる子会社出資金が増加したためであります。

### (負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,663百万円増加し12,171百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,382百万円増加し10,664百万円となりました。主な増減要因は、短期借入金の増加1,650百万円、買掛金の増加1,387百万円、未払法人税等の減少286百万円、その他に含まれる未払金の減少200百万円などあります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ281百万円増加し1,507百万円となりました。主な増加要因は、長期借入金の増加164百万円、繰延税金負債の増加139百万円などあります。

なお、当第3四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ1,834百万円増加し4,920百万円となっております。

### (純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ460百万円増加し17,849百万円となりました。主な増減要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上615百万円、その他有価証券評価差額金の増加125百万円、剰余金の配当による減少228百万円、為替換算調整勘定の減少75百万円などあります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ5.1ポイント減少し59.5%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間までの業績は、売上高、利益面ともに概ね前回予想どおりの状況で推移しております。

なお、通期の業績予想につきましては、鳥インフルエンザの影響などにより鶏卵価格が高騰しておりますが、その他の原材料価格、為替の変動など業績に与える流動的な要素も多いため、現時点において、2025年11月4日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流动資産		
現金及び預金	2,275	2,014
受取手形及び売掛金	5,753	※ 8,284
商品及び製品	3,535	3,712
仕掛品	64	64
原材料及び貯蔵品	1,586	1,831
その他	556	892
貸倒引当金	△8	△11
流动資産合計	13,763	16,786
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,374	3,385
機械装置及び運搬具（純額）	1,919	1,961
土地	4,155	4,153
リース資産（純額）	250	186
その他（純額）	520	412
有形固定資産合計	10,221	10,099
無形固定資産		
ソフトウエア	614	587
ソフトウエア仮勘定	73	73
リース資産	8	1
その他	3	3
無形固定資産合計	699	666
投資その他の資産		
投資有価証券	961	1,143
長期前払費用	2	2
繰延税金資産	10	7
退職給付に係る資産	417	446
その他	847	894
貸倒引当金	△27	△26
投資その他の資産合計	2,211	2,468
固定資産合計	13,133	13,234
資産合計	26,897	30,021

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	3,055	4,443
短期借入金	1,760	3,410
1年内返済予定の長期借入金	487	507
リース債務	125	89
未払法人税等	359	72
賞与引当金	327	220
役員賞与引当金	—	35
契約負債	53	52
その他	2,112	1,833
<b>流動負債合計</b>	<b>8,282</b>	<b>10,664</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	838	1,002
長期未払金	60	60
リース債務	167	124
資産除去債務	54	53
退職給付に係る負債	19	20
練延税金負債	83	223
その他	1	21
<b>固定負債合計</b>	<b>1,225</b>	<b>1,507</b>
<b>負債合計</b>	<b>9,508</b>	<b>12,171</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	14,157	14,544
自己株式	△64	△64
<b>株主資本合計</b>	<b>16,294</b>	<b>16,681</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	388	513
練延ヘッジ損益	△4	18
為替換算調整勘定	710	635
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>1,094</b>	<b>1,167</b>
<b>純資産合計</b>	<b>17,388</b>	<b>17,849</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>26,897</b>	<b>30,021</b>

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	38,779	38,734
売上原価	28,237	29,187
売上総利益	10,542	9,547
販売費及び一般管理費	8,406	8,835
営業利益	2,136	712
営業外収益		
受取利息	1	3
受取配当金	27	41
持分法による投資利益	60	62
長期為替予約評価益	—	63
為替差益	226	78
その他	23	31
営業外収益合計	340	279
営業外費用		
支払利息	25	27
長期為替予約評価損	61	—
その他	19	14
営業外費用合計	105	41
経常利益	2,370	950
特別利益		
固定資産売却益	9	2
投資有価証券売却益	22	—
特別利益合計	31	2
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	1	20
特別損失合計	1	20
税金等調整前四半期純利益	2,400	932
法人税、住民税及び事業税	694	240
法人税等調整額	75	75
法人税等合計	769	316
四半期純利益	1,630	615
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,630	615

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,630	615
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	63	125
繰延ヘッジ損益	6	22
為替換算調整勘定	31	△54
持分法適用会社に対する持分相当額	11	△20
その他の包括利益合計	112	73
四半期包括利益	1,743	688
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,743	688
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
受取手形	一千万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	873百万円	953百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	35,759	2,676	38,435	343	38,779	—	38,779
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	497	497	△497	—
計	35,759	2,676	38,435	841	39,277	△497	38,779
セグメント利益	3,241	233	3,475	5	3,480	△1,344	2,136

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,344百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,412百万円及び棚卸資産の調整額68百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	業務用 食品等	ヘルス フード	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	35,408	2,980	38,388	346	38,734	—	38,734
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	559	559	△559	—
計	35,408	2,980	38,388	905	39,293	△559	38,734
セグメント利益	1,915	245	2,160	51	2,212	△1,500	712

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものは運輸業であります。

2. セグメント利益の調整額△1,500百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,516百万円及び棚卸資産の調整額16百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。